

鶏肉情勢

令和4年6月9日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会令和4年5月末実施)によると4月の推計実績は処理羽数62,296千羽(前年比100.5%)・処理重量188.0千t(同100.0%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%下方修正し、処理重量は1.4%下方修正となっている。処理羽数は前年を僅かに上回っているものの、処理重量は前年と同数値であり、増体が良くなかったことが伺える。 (2) 5月の処理羽数は前年を上回る見通しだが、処理重量が前年を下回る見通しとなっている。地区別で見ると関東・近畿・中国・四国地区で処理重量が前年を大幅に下回っており、大腸菌症による育成不良と高騰する飼料の使用を控えるため出荷日齢を早め増体を抑えていることが考えられる。6月についても処理羽数が前年を上回っているものの、処理重量は前年を下回る見通しとなっている。一部工場では海外技能実習生が戻りつつあると聞かれるが、完全に回復するのは当分先のような。加工品(手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整が今後も見込まれる。
	2. 輸入 (1) 財務省5月27日公表の貿易統計によると令和4年4月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から1.5千t減の43.6千tで、国別ではブラジルが▲1.2千t、タイが▲0.3千tとなっている。前年同月の実績に対しては3.6千t減となった。ブラジル産のオファーが高騰していることにより輸入量を調整したことが原因と考えられる。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、5月が46.2千t(前年比99.9%)、6月が48.4千t(前年比113.1%)となっている。4月実績より徐々に輸入量は増加しており、国内の外食・中食・総菜向け需要が強まってきたこと等から買い付けが増加傾向にあるようだ。物流費・人件費・資材費等の世界的なコストの高騰等をきっかけに、外食・中食の一部では国産鶏肉へ切り替えたり、輸入鶏肉と国産鶏肉を併用する動きが見られ、今後も国内および海外市況を見ながら輸入量が変動することが予想される。他畜種についても輸入原料は高騰しており、畜肉全般において卸だけでなく消費者に近い量販店や専門店、外食での価格転嫁が加速するのではないだろうか。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から3.7千t減の44.1千tで、国別では中国が+0.2千t、タイが▲3.8千tとなった。前年同月の実績に対しては1.7千t減となった。輸出国における製造体制もある程度水準まで回復していると考えられるが、前述の世界的なコストアップにより価格が高騰している影響で、前月・前年同月よりも数量は減少したと考えられる。ただし、国内の外食・中食・総菜向け等の引き合いは強いいため今後の動向に注視したい。 (3) 財務省が5月27日に公表した貿易統計によると4月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より41.4%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より13.5%上昇した。依然として、前述の世界的なコストアップや為替相場の円安により高値が続いているものの、ブラジル産の価格が260円/kg(前月比10円安)、タイ産が385円/kg(同32円高)となっており、ブラジル産については少し落ち着きを見せている。タイ産については1.5次加工やサイジング、検品強化を行ったムネ肉を中心に輸入されているが、EU圏がウクライナ産鶏肉の代替としてタイ産のムネ肉を集めているとの情報も聞かれるため、加工筋向けに国内へ輸入されるムネ肉については暫く高値が続くようだ。国産鶏肉への影響に注視したい。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和4年4月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比92.5%の4.7千tとなった。うち国内品は同98.3%の3.9千tと前年を下回り、輸入品についても同72.0%の0.8千tと前年を下回った。
需要	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年4月の生鮮肉消費(購入)は数量4,278g(前年比98.6%)、金額6,092円(同98.0%)と、数量・金額共に前年を下回った。鶏肉は数量1,512g(同97.2%)・金額1,368円(同98.8%)・単価90.5円/100g(前年同月+0.6円)と、数量・金額は前年を下回ったものの、単価は上回る結果となった。調理食品が金額11,206円(同102.8%)、外食が11,392円(同119.3%)となっており、新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置が明けた影響もあり、中食・外食へ消費が一部シフトしたと考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年4月の食品売上高は全店ベースで前年比102.5%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.5%、既存店ベースは同100.9%となった。また、畜産部門の売上高は約1,100.0億円で全店ベース同98.3%、既存店ベース同96.7%となった。「内食需要の落ち着きにより、全般的に買上点数が低迷した店舗が多かった。輸入肉の価格上昇傾向が続いており、入荷も不安定とのコメントがみられた。牛乳は、アメリカ産牛乳で価格高騰が続き、販促も打ちにくい状況が続いている。比較的価格が安定している国産豚肉や、相場が落ち着きだした鶏肉は、比較的好調に推移した。ハムなどの加工肉は前年に好調だった反動もあり、伸び悩んだ店舗が多い。」と報告があった。今後は気温の上昇から焼き食材中心のフェースへ切り替わっていくことが予想される。また、輸入品価格高騰等から特売を打ちにくいという声も聞かれる。
在庫	1. 令和4年4月(2022年4月) (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産31.3千t(前年比99.0%・前月差▲1.2千t)、輸入品116.3千t(同89.6%・同▲8.9千t)と合計で147.6千t(同91.5%・同▲10.1千t)となった。
	2. 見直し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年6月6日更新)では、4月の出回り量は国産142.2千t(前年比103.8%・前月差▲2.7千t)、輸入品52.4千t(同94.6%・同+3.2千t)と合計で194.6千t(同101.2%・同+0.5千t)となった。5月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から消化が進んでいるようだ。5~6月の輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように増加する見通しであることから、一時的に輸入品の在庫が増加する可能性はあるが、その後は国内の外食・中食・総菜向け等の引き合いが強いこと等から、輸入品在庫は減少していくと予想する。
相場	1. 令和4年5月動向 (1) 令和4年5月の月平均相場は、モモ肉624円/kg(前月差+2円)・ムネ肉321円/kg(同+6円)正肉合計で945円/2kgと前月差で8円上回り、前年差では17円下回った。モモ肉相場は月初623円、月末は623円と同価格であった(昨年は月初667円、月末642円の25円の下げ)。昨年の相場より低くなったが、これはコロナ禍による内食需要が少し落ち着いてきた影響だと考える。また、昨年と比較して処理重量が若干下がっていることから、昨年は下げ基調だったものの、今年については月初と月末は同相場だったと考えられる。ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが強くなっており、競合する輸入鶏肉の在庫水準が低いことも相まって、前月から6円の上げとなった。量販店向けの特売や卸へのスポット販売を控えた産地・販売会社もあったようで、安価で国産ムネ肉を集荷することが厳しくなっているようだ。
	2. 見直し (1) 6月の生産量は、産地の増体悪化により若干減少する可能性がある。また、コロナ禍による工場稼働への影響も懸念される。一方需要面では、あらゆる食料品が値上げされている中で節約志向が高まり、安価な鶏肉へ需要が集中する可能性がある。また、外食の消費が増えることが予想されるものの、外食で使用する輸入鶏肉の価格高騰から国産鶏肉へ一部シフトすることも考えられる。なお、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見直し(6月)」によると、6月の気温は上旬から中旬にかけては全国的に平年よりも低いか平年並みの予測となっており、下旬は平年並みか平年よりも気温が高くなる予測となっている。以上から、モモ肉相場は暑さによる食肉需要自体の減衰も考慮し、5月より下げの月平均615円前後と予測する。ムネ肉相場は加工原料としての引き合いが強く、競合する輸入鶏肉の高騰から、上げの月平均330円と予測する。 (2) 直近の販売状況はエアアにより濃淡が強くなっている印象が強く、生産が順調で凍結回しを回避するためにモモ肉をスポット出荷・特売を行っている産地・販売会社があるようだ。輸入品全般の価格高騰等から国産鶏肉で特売を打つ量販店も見られる。また、外食・中食へ需要が若干シフトしている影響もあり、量販店の集客数が昨年を下回っているという話が聞かれる。今後の新型コロナの感染状況にもよるが、コロナ禍前の状況へ少しづつ戻っていくことが予想されるため、外食および外食筋向け卸関係への販売量が増加していくと考える。また、輸入鶏肉の高騰により手当が難しいことから国産鶏肉へ一部シフトすることも考えられるため、国産相場への影響に注視したい。

実績											
生産状況											
単位:千羽、千トン、%											
	R4年4月推計実績		R4年5月計画		R4年6月計画		R4年7月計画				
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	前年比		
入雞羽数	65,470	101.8%	62,663	100.6%	61,035	101.1%	63,337	99.2%			
処理羽数	62,296	100.5%	61,290	100.6%	60,573	100.7%	58,773	98.0%			
処理重量	188.0	100.0%	183.6	98.7%	180.6	99.0%	173.6	96.6%			
※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」											
輸入動向											
単位:千トン、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年11月	57.8	45.3	127.5	43.8	42.7	102.4	101.5	88.0	115.3	56.9	43.1
R3年12月	60.7	42.7	142.1	48.2	44.1	109.2	108.9	86.8	125.4	55.7	44.3
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年1月	53.8	48.9	109.9	43.2	33.7	128.3	97.0	82.6	117.4	55.5	44.5
R4年2月	49.6	45.5	108.9	38.8	34.2	113.3	88.4	79.8	110.8	56.1	43.9
R4年3月	45.1	55.6	81.1	47.8	43.9	108.7	92.9	99.5	93.3	48.6	51.4
R4年4月	43.6	50.2	86.9	44.1	45.8	96.3	87.7	96.0	91.4	49.7	50.3
※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
鶏肉の消費動向											
単位:グラム、円、%											
履歴	数量			金額							
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R3年11月	1,536	1,498	102.5	1,429	1,425	100.3					
R3年12月	1,695	1,839	92.2	1,702	1,763	96.5					
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9					
R4年1月	1,563	1,582	98.8	1,450	1,469	98.7					
R4年2月	1,483	1,428	103.9	1,404	1,359	103.3					
R4年3月	1,550	1,528	101.4	1,439	1,406	102.3					
R4年4月	1,512	1,556	97.2	1,368	1,384	98.8					
※参考資料:総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」											
相場(年別・暦年)											
単位:円											
履歴	モモ肉		ムネ肉		計						
H26年	626	294	920								
H27年	639	336	975								
H28年	621	255	876								
H29年	626	315	941								
H30年	595	282	877								
R元年	585	243	828								
R2年	614	269	883								
R3年	641	313	954								
在庫状況(推定)											
単位:千トン、%											
履歴	国産			輸入品			合計				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R3年11月	33.6	26.4	127.0	114.7	131.3	87.4	148.2	157.7	94.0		
R3年12月	35.5	26.8	132.2	114.4	124.3	92.1	149.9	151.1	99.2		
R4年1月	35.1	26.5	132.4	123.2	129.5	95.1	158.3	156.0	101.5		
R4年2月	33.9	27.5	123.2	129.3	129.7	99.7	163.2	157.2	103.8		
R4年3月	32.5	28.8	112.9	125.2	135.0	92.7	157.7	163.8	96.2		
R4年4月	31.3	31.7	99.0	116.3	129.8	89.6	147.6	161.4	91.5		
※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
相場(月別)											
単位:円、%											
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年2月	646	701	92.2	323	305	105.9	969	1,006	96.3		
R4年3月	631	691	91.3	316	304	103.9	947	995	95.2		
R3年度平均	627	640	98.0	317	283	112.0	944	923	102.3		
R4年4月	622	678	91.7	315	305	103.3	937	983	95.3		
R4年5月	624	659	94.7	321	303	105.9	945	962	98.2		
R4年6月	(615)	631	97.5	(330)	296	111.5	(945)	927	101.9		
R4年7月	(605)	600	100.8	(340)	301	113.0	(945)	901	104.9		
※()は見直し ※()は見直し											